医療従事者の方へ

外来化学療法レジメン

・当院の外来化学療法室で実施している内服処方薬を含むレジメンの一覧です。
・保険薬局での処方チェックおよび服薬指導のご参考にしてください。
・掲載のスケジュールや薬品名は標準レジメンであり、患者様の状態によって変更になっている場合があります。
・患者毎のレジメンの内容は担当薬剤師がお薬手帳に貼付しています。

改定日　2025/3　がん化学療法チーム

●乳がん

□　FEC100 療法　/　術前・術後補助　切除不能進行・再発　　催吐リスク：高度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
シクロフォスファミド	エンドキサン注	500　mg/㎡	点滴静注	Day　1	3 週毎	4 コースを目安
塩酸エピルビシン	エピルビシン注	100　mg/㎡	点滴静注	Day　1		
フルオロウラシル	フルオロウラシル注	500　mg/㎡	点滴静注	Day　1		
【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、心毒性、悪心・嘔吐、脱毛、口内炎、便秘						
Day1 にアプレピタント 125mg を服用、Day2.3 にアプレピタント 80mg を午前中に服用 Day2.3 にデカドロン（4mg）を朝食後 1 錠・昼食後 1 錠で服用 発熱時：レボフロキサシン 500ｍｇ/回 5 日、アセトアミノフェン（200ｍｇ）6 錠 3×　5 日						

□　AC 療法　/　術前・術後補助　切除不能進行・再発　　催吐リスク：高度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
シクロフォスファミド	エンドキサン注	600　mg/㎡	点滴静注	Day　1	3 週毎	4 コース 最大 6 コース
ドキソルビシン	ドキソルビシン注	60　mg/㎡	点滴静注	Day　1		
【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、心毒性、悪心・嘔吐、脱毛、口内炎、発熱、出血性膀胱炎、便秘						
Day1 にアプレピタント 125mg を服用、Day2.3 にアプレピタント 80mg を午前中に服用 Day3 から 5 にジーラスタを投与 発熱時：レボフロキサシン 500ｍｇ/回 5 日、アセトアミノフェン（200ｍｇ）6 錠 3×　5 日						

□　カペシタビン療法　/　切除不能進行・再発　　催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
カペシタビン	カペシタビン錠	A 法:825mg/㎡ B 法:1250 mg/㎡	経口	2 回に分けて朝夕食後 A 法　3 週間服用 1 週間休薬 B 法　2 週間服用 1 週間休薬	A 法：4 週毎 B 法：3 週毎	PD まで
【特に注意したい有害事象】手足症候群、腎障害、骨髄抑制、心障害、口内炎、肝障害、黄疸						
ヘパリン類似物質クリームなどの保湿クリームの 5 回以上/Day の頻回投与 【相互作用】ワルファリンカリウム、フェニトイン 【併用禁忌】テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム 腎機能を考慮した投与量の調整が必要						

□　S-1 療法　/　切除不能進行・再発　　催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム	エスワンタイホウ配合 OD 錠	80　mg/㎡	経口	2 回に分けて朝夕食後 4 週間服用 2 週間休薬	6 週毎	PD まで
【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、肝機能障害、食欲不振、下痢、口内炎、色素沈着、流涙						
【相互作用】ワルファリンカリウム、フェニトイン 【併用禁忌】フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍薬やフッ化ピリミジン系抗真菌薬の前治療がないことを確認 腎機能を考慮した投与量の調整が必要						

□　経口抗ホルモン剤療法　/　術後補助・切除不能進行・再発　　催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
クエン酸タモキシフェン	タモキシフェン錠	20　mg/day	経口	1～2 回に分けて食後 連日服用 最大 40mg/day まで	－	術後 5 年 切除不能・再発 PD まで
【特に注意したい有害事象】ほてり、悪心・嘔吐、無月経、月経異常、膣分泌物、体重増加、無気力						
クエン酸トレミフェン	フェアストン錠 トレミフェン錠	40　mg/day 他治療無効例： 120　mg/day	経口	1 日 1 回　連日服用	－	PD まで
【特に注意したい有害事象】ほてり、悪心・嘔吐、無月経、月経異常、膣分泌物、体重増加、無気力						
アナストロゾール レトロゾール	アナストロゾール錠 レトロゾール錠	1　mg/day 2.5　mg/day	経口	1 日 1 回　連日服用	－	術後 5～10 年 切除不能・再発 PD まで
エキセメスタン	エキセメスタン錠	25 mg/day	経口	1 日 1 回　連日服用		PD まで
【特に注意したい有害事象】ほてり、悪心、血栓症、肩こり、関節痛、頭痛、倦怠感、骨粗鬆症						

□　TC 療法　/　術後補助・切除不能進行・再発　　催吐リスク：中等度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
ドセタキセル	ドセタキセル注	75　mg/㎡	点滴静注	Day　1	3 週毎	4 コース
シクロフォスファミド	エンドキサン注	600　mg/㎡	点滴静注	Day　1		

【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、悪心・嘔吐、脱毛、皮疹、疲労、浮腫

Day2.3 にデカドロン（4mg）を朝食後 1 錠・昼食後 1 錠で服用

Day3 から 5 にジーラスタを投与

発熱時：レボフロキサシン 500ｍｇ/回 5 日、アセトアミノフェン（200ｍｇ）6 錠 3×　5 日

【相互作用】CYP3A4 で代謝される　アゾール系抗真菌剤

□　DOC+3HER+3Per 療法　/　術前・術後補助　切除不能進行　　吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
ドセタキセル	ドセタキセル注	75　mg/㎡	点滴静注	Day　1	3 週毎	術前・術後 計 1 年 切除不能・再発 PD まで
トラスツズマブ	トラスツズマブ BS 注	初回 8mg/kg 2 回目以降 6mg/kg	点滴静注	Day　1		
ペルツズマブ	パージェタ注	初回 840mg/回 2 回目以降 420mg/回	点滴静注	Day　1		

【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、心毒性、下痢、悪心・嘔吐、脱毛

Day3 から 5 にジーラスタを投与

下痢時：ロペラミド

【相互作用】CYP3A4 で代謝される　アゾール系抗真菌剤

□　Weekly-PTX+3HER+3Per 療法　/　術前・術後補助　切除不能進行　　催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
パクリタキセル	パクリタキセル注	80　mg/㎡	点滴静注	Day　1、8、15	3 週毎	術前・術後 計 1 年 切除不能・再発 PD まで
トラスツズマブ	トラスツズマブ BS 注	初回 8mg/kg 2 回目以降 6mg/kg	点滴静注	Day　1		
ペルツズマブ	パージェタ注	初回 840mg/回 2 回目以降 420mg/回	点滴静注	Day　1		
【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、心毒性、下痢、悪心・嘔吐、脱毛、アレルギー						
下痢時：ロペラミド 【相互作用】CYP3A4 で代謝される　アゾール系抗真菌剤						

□　EXE+エベロリムス療法　/　切除不能進行・再発　　催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路		1 コースの期間	継続期間
エキセメスタン	アロマシン錠	25mg/day	経口	1 日 1 回　連日服用	－	PD まで
エベロリムス	アフィニトール錠	10mg/day	経口	1 日 1 回　連日服用		
【特に注意したい有害事象】口内炎、間質性肺疾患、腎障害、高血糖、骨髄抑制、血栓症						
口内炎予防：アズレン含嗽用散　1 包/回　最低 1 日 3 回　できれば 1 日 8 回（約 2 時間毎） 【相互作用】P-糖蛋白阻害薬・誘導薬との併用に注意　CYP3A4 を阻害する薬剤・食品や CYP3A4 を誘導する薬剤・食品に注意						

□　パルボシクリブ+ホルモン療法　/　切除不能進行・再発　　催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路		1 コースの期間	継続期間
パルボシクリブ	イブランス錠	125mg/body	経口	3 週間服用 1 週間休薬	4 週毎	PD まで
①レトロゾール	フェマーラ錠	2.5mg	経口	1 日 1 回　連日服用	－	
②フルベストラント	フェソロデックス	500mg/ body	筋注	初回 Day1、Day15、Day28、その後 4 週毎		
パルボシクリブ+①又は②を併用する 【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、脱毛、口内炎、悪心、下痢、疲労、肝機能障害、血栓症						
【相互作用】CYP3A4 を阻害する薬剤・食品や CYP3A4 を誘導する薬剤・食品に注意						

□　アベマシクリブ+内分泌療法　/　切除不能進行・再発　　催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1コースの期間	継続期間
アベマシクリブ	ベージニオ錠	300mg/Body （1回150mg）	経口	2回に分けて連日服用	ー	PDまで
①フルベストラント	フェソロデックス	500mg/Body	筋注	初回Day1、Day15、Day28、その後4週毎		
②レトロゾール	レトロゾール錠	2.5mg	経口	１日１回　連日服用	ー	
③アナストロゾール	アナストロゾール錠	1mg	経口	１日１回　連日服用	ー	
アベマシクリブ+①又は②又は③を併用する 【特に注意したい有害事象】下痢、骨髄抑制、脱毛、悪心、疲労、肝機能障害、血栓症、間質性肺炎						
下痢時：ロペラミド						
【相互作用】CYP3A4を阻害する薬剤・食品やCYP3A4を誘導する薬剤・食品に注意						

□　リムパーザ療法　/　切除不能進行・再発　　催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1コースの期間	継続期間
オラパリブ	リムパーザ錠	600mg/Body （1回300mg）	経口	2回に分けて連日服用 空腹時投与	―	PDまで
【特に注意したい有害事象】悪心・嘔吐、下痢、骨髄抑制、疲労、頭痛						
嘔気時：ノバミン5mg or メトクロプラミド5mg						
【相互作用】CYP3A4を阻害する薬剤・食品やCYP3A4を誘導する薬剤・食品に注意						

□Dose-Dense　AC療法　/　術前・術後補助　　催吐リスク：高度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1コースの期間	継続期間
シクロフォスファミド	エンドキサン注	600　mg/㎡	点滴静注	Day　1	2週毎	4コース目安
ドキソルビシン	ドキソルビシン注	60　mg/㎡	点滴静注	Day　1		
【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、心毒性、悪心・嘔吐、脱毛、口内炎、発熱、出血性膀胱炎、便秘						
Day1にアプレピタント125mgを服用、Day2.3にアプレピタント80mgを午前中に服用 Day3から5にジーラスタを投与 発熱時：レボフロキサシン500ｍｇ/回5日、アセトアミノフェン（200ｍｇ）6錠3×　5日						

□Dose-Dense　PTX 療法　/　術前・術後補助　　催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
パクリタキセル	パクリタキセル注	175mg/㎡	点滴静注	Day　1	2 週毎	4 コース目安
【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、脱毛、アレルギー						
Day3 から 5 にジーラスタを投与 発熱時：レボフロキサシン 500ｍｇ/回 5 日、アセトアミノフェン（200ｍｇ）6 錠 3×　5 日 【相互作用】CYP3A4 で代謝される　アゾール系抗真菌剤						

□　アベマシクリブ+内分泌療法　/　術後補助　　催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
アベマシクリブ	ベージニオ錠	300mg/Body （1 回 150mg）	経口	2 回に分けて連日服用	－	アベマシクリブは 2 年間
①タモキシフェン	タモキシフェン	20mg	経口	１日１回　連日服用	－	
②レトロゾール	レトロゾール錠	2.5mg	経口	１日１回　連日服用	－	
③アナストロゾール	アナストロゾール錠	1mg	経口	１日１回　連日服用	－	
④エキセメスタン	エキセメスタン錠	25mg	経口	１日１回　連日服用		
アベマシクリブ+①又は②又は③を併用する 【特に注意したい有害事象】下痢、骨髄抑制、脱毛、悪心、疲労、肝機能障害、血栓症、間質性肺炎						
下痢時：ロペラミド						
【相互作用】CYP3A4 を阻害する薬剤・食品や CYP3A4 を誘導する薬剤・食品に注意						

□　S1+内分泌療法　/　術後補助　　催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1コースの期間	継続期間
テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム	エスワンタイホウ配合OD錠	80　mg/㎡	経口	2回に分けて朝夕食後 2週間服用1週間休薬	3週毎	S1は1年間
①タモキシフェン	タモキシフェン	20mg	経口	1日1回　連日服用	―	
②レトロゾール	レトロゾール錠	2.5mg	経口	1日1回　連日服用	―	
③アナストロゾール	アナストロゾール錠	1mg	経口	1日1回　連日服用	―	
④エキセメスタン	エキセメスタン錠	25mg	経口	1日1回　連日服用		

S1+①又は②又は③などを併用する
【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、肝機能障害、食欲不振、下痢、口内炎、色素沈着、流涙、

【相互作用】CYP3A4を阻害する薬剤・食品やCYP3A4を誘導する薬剤・食品に注意　　ワルファリンカリウム、フェニトイン
【併用禁忌】フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍薬やフッ化ピリミジン系抗真菌薬の前治療がないことを確認
S1は腎機能を考慮した投与量の調整が必要

□　トラスツズマブ　デルクステカン療法　/　切除不能進行　　催吐リスク：中等度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1コースの期間	継続期間
トラスツズマブ デルクステカン	エンハーツ注	5.4　mg/kg	点滴静注	Day　1	3週毎	PDまで

【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、間質性肺炎、心毒性、下痢、悪心・嘔吐、脱毛、肝機能障害、鼻出血

Day2.3にデカドロン（4mg）を朝食後1錠・昼食後1錠で服用
悪心・嘔吐が強い方にはアプレピタントを併用する

□　ターゼナ療法　/　切除不能進行・再発　　催吐リスク：軽度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1コースの期間	継続期間
タラゾパリブ	ターゼナカプセル	1　mg/Body	経口	1日1回　連日服用	―	PDまで

【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、疲労、悪心・嘔吐、下痢、頭痛

【相互作用】P-gp阻害薬（イトラコナゾール、クラリスロマイシン、ラパニチブなど）

□　キイトルーダ＋PTX＋CBDCA 療法　/　術前　　催吐リスク：中等度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
ペムブロリズマブ	キイトルーダ注	200　mg/Body	点滴静注	Day　1	3 週毎	4 コース
パクリタキセル	パクリタキセル注	80mg/㎡	点滴静注	Day　1.8.15		
カルボプラチン	カルボプラチン注	AUC：1.5	点滴静注	Day　1.8.15		
【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、脱毛、悪心、疲労、アレルギー、免疫関連有害事象						
【相互作用】CYP3A4 や CYP2C8 を阻害する薬剤・食品に注意						

□　キイトルーダ＋　AC 療法　/　術前　・術後補助　　催吐リスク：高度

一般名	商品名	投与量	投与経路	投与日	1 コースの期間	継続期間
ペムブロリズマブ	キイトルーダ注	200　mg/Body	点滴静注	Day　1	3 週毎	術前 4 コース
シクロフォスファミド	エンドキサン注	600　mg/㎡	点滴静注	Day　1		
ドキソルビシン	ドキソルビシン注	60　mg/㎡	点滴静注	Day　1		
ペムブロリズマブ	キイトルーダ注	200　mg/Body	点滴静注	Day　1	3 または 6 週毎	術後　約 7 ヵ月
【特に注意したい有害事象】骨髄抑制、心毒性、悪心・嘔吐、脱毛、口内炎、発熱、出血性膀胱炎、免疫関連有害事象						
Day1 にアプレピタント 125mg を服用、Day2.3 にアプレピタント 80mg を午前中に服用 Day3 から 5 にジーラスタを投与 発熱時：レボフロキサシン 500ｍｇ/回 5 日、アセトアミノフェン（200ｍｇ）6 錠 3×　5 日						

入れていないもの

乳-3　CMF 療法

乳-4　トラスツズマブ療法

乳-5　ドセタキセル療法

乳-10　Weekly-PTX 療法

乳-11　Weekly-PTX+HER（Weekly または 3W）療法

乳-12　nabPTX 療法
乳-15　Weekly-PTX+bi-Bmab 療法
乳-18　GEM 単剤療法
乳-21　テセントリク+nabPTX 療法
乳-28　キイトルーダ＋化学療法